



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート

第79号(2010年8月31日)



【ドバイのハードロックカフェの再オープン】

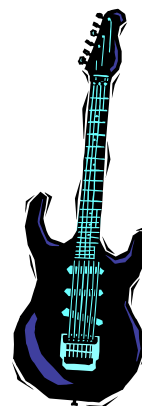
ドバイの古くからの観光名所の一つにハードロックカフェがありました。1997年にオープンし、ドバイ・マリーナができる以前は、ドバイの最も“端”を表すランドマークとして知られていました。このハードロックカフェは2009年3月に閉鎖されましたが、今年の10月に再オープンすることになったそうです。

閉鎖時は、ソーシャル・ネットワーク・サービスのFacebookでSave the Hard Rock Café Dubaiというコミュニティが立ち上がり、1万人以上のファンがコメントを残したと伝えられています。

Gulf Newsの報道によれば、再オープンするハードロックカフェは、有名なショッピング・モールのドバイ・フェスティバル・シティの一角にできるそうです。再オープンの暁には、北米域外では最大級の規模となるようです。ハードロック・インターナショナルの発表によれば、店舗の広さは約2,400平方メートルで、300人の収容能力があるとのことでした。

また、閉鎖前は、建物の上層部がニューヨークのエンパイア・ステートビルを模した形状だったことが特徴的でしたが、今回の再オープンにあたっては、高さ35メートル超の、世界でもっとも高い、装飾品のギターが展示されることになっています。この装飾品のギターのサイズについては、ギネスブックにも世界記録の申請を行っているそうです。

店舗のスタッフについても、閉鎖前のスタッフの多くが今回オープンされる店舗でも働く予定で、ラマダン明けからスタッフ・トレーニングが始まるそうです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート



【中東の喫煙事情】

愛煙家の方、吸わない方ともに、海外の喫煙事情と日本の今後の動向は気になるところでしょうか。以前、アメリカやイギリスの禁煙事情が日本でも話題に挙がったことが思い出されます。

昨今、中東においても禁煙の流れが広がっています。シリアでは今年から禁煙法が施行され、公共の場所ではタバコが吸えなくなりました。ヨルダンも最近、首都アンマンではタバコの自動販売機の設置が禁止されたそうです。

エジプトは一人当たりのタバコ消費量では世界でもトップクラスのタバコ消費国として知られていますが、そのエジプトにおいても禁煙への動きが本格化してきています。

エジプトでは、成人の20%がスモーカーだとされていますが、7月よりタバコ、水タバコに対する税金が引き上げとなりました。そして、地中海沿岸の都市アレクサンドリアでは、当局が屋内の公共の場での喫煙を禁止しようとしています。

今後、実際にエジプトでこういった禁止令が施行されるか疑問視する向きもあるようですが、不景気の中でタバコが値上げされることにより、人々が自発的にタバコをやめることを当局は意図しているそうです。スモーカーは収入の15%以上をタバコにあてているという一部の調査結果も出ています。しかし、値上げしてもなお、エジプトのタバコは欧米と比べて安いとされています。一方で一人当たりの収入も欧米諸国よりも低いことから、値上げによって喫煙が減ることが見込まれています。

翻って日本では、たとえば千代田区では路上禁煙地区が設けられるなど、一部の自治体では公の場所での喫煙に制限がかけられ、また、ボランティアの方によるパトロールもたまに見かけます。しかしながら、日本はいまだに世界的にもタバコに寛大な国とされており、今後どのように喫煙が抑制されるのか、あるいはされないのかが注目されます。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート



【ロシアの干ばつ】

ロシアでは猛暑による干ばつにより、小麦などの収穫量が危ぶまれており、政府が小麦などの穀物の年内の輸出を禁止する措置をとりました。国際穀物理事会によれば、ロシアは去年は世界第三位の小麦輸出国でした。同じく世界第四位の小麦輸出国であったウクライナも輸出制限を実施すると報道されています。

国際穀物理事会の調査では、2008年から2009年にかけて、エジプトは小麦の輸入量の約47%を、トルコは同約58%をロシアに依存していたそうです。一方でアラブ首長国連邦は、小麦の輸入のうちロシアからのものは2%に過ぎないため、影響を受けないと発表しています。

【ラマダンとナツメヤシ】

ナツメヤシは中東では主要な食品の1つです。

ナツメヤシの果実はデーツと呼ばれますが、デーツと牛乳は、ラマダン期間中の日没後に最初にとる食事だそうです。

デーツの果肉は栄養に富んでいます。また、含まれる繊維や食物ステロールがコレステロールのコントロールに役立つなど、健康に役立つ要素が多数あるとされています。

そういった利点にも関わらず、デーツの効用はあまり幅広くは認識されていません。ナツメヤシを栽培する諸国はグローバルな医学的な調査に十分に参加していないためです。

そんなデーツが西洋の世界に紹介されたのは最近のことで、モロッコを通じて、乾燥した形で伝来したそうです。

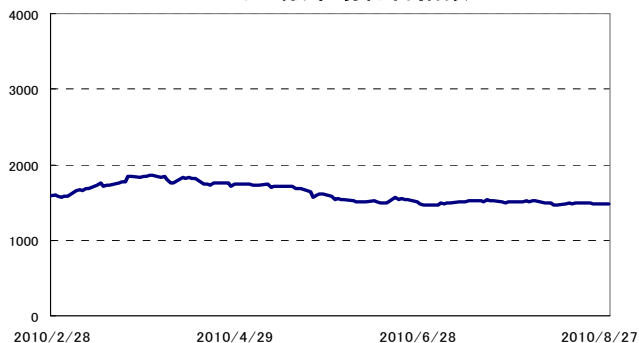


本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

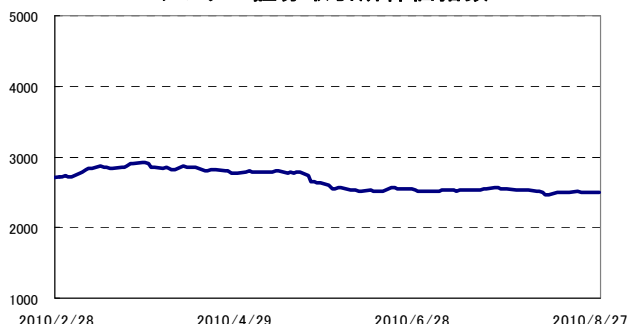


【ご参考】 中東(GCC)地域の株価推移 (各市場の直近6ヶ月)

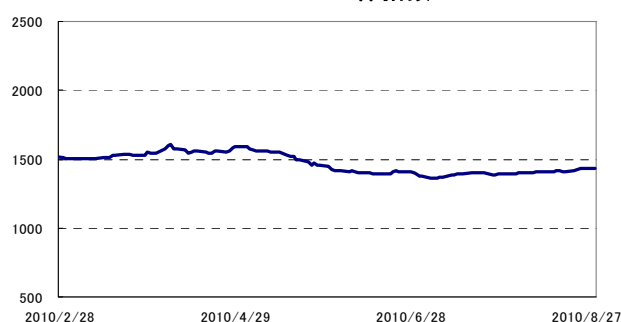
ドバイ金融市場総合指数



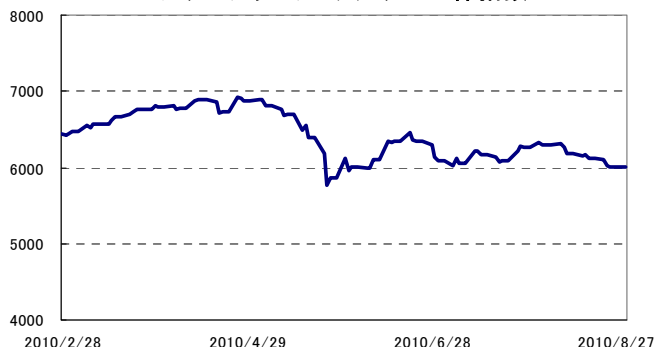
アブダビ証券取引所株価指数



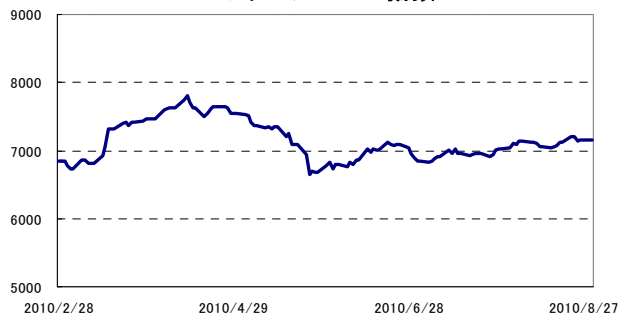
バーレーン全株指数



サウジアラビア タダウル全株指数



カタール DSM指数



クウェート証券取引所指数



オマーン マスカットMSM30指数



出所:FACTSET



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。